



DAISYO CORPORATION

株式会社大庄

平成29年8月期第2四半期

決算説明資料

平成29年4月21日



日本の台所

I. 29年8月期の経営戦略及び具体的施策

II. 29年8月期第2四半期決算の概要

1. 連結業績の内訳	6	6. 連結特別損失の内訳	12
2. 新規出店・改装店実績	7	7. 連結貸借対照表(B/S)	13
3. 都道府県別 グループ店舗数	8	8. 連結キャッシュ・フロー	14
4. 売上高	9-10	9. 関係会社の状況	15
5. 販売費及び一般管理費の内訳	11		

III. 今後の経営計画及び具体的施策について

10. 29/8期 通期計画(連結ベース)	17
11. 29/8期 店舗計画	18
12. 29/8期 計画骨子(下半期及び通期)	19
13. 29/8期 中期経営計画(連結ベース)	20

1. 店舗リストラクチャリングの推進

⇒ 29年8月期は、リストラのピーク年度として改装70店舗、閉店20店舗の見通し

(1) 当面は、「専門店」業態などへの業態転換を強化

→ 『とり家 ゑび寿』、『羊肉酒場・悟大』、『ランプキャップ』などが好調に推移

2. 店舗業態ポートフォリオの充実化

(1) 既存業態のブラッシュアップ

→ 特に、『庄や』、『日本海庄や』、『築地日本海』、『呑兵衛』、『塩梅』のメニューを大きく刷新

(2) 高品質食材を使用した新しい「専門店」業態の開発を続々と展開中

→ 今期は『銭函バーベキュー』、『馬肉酒場・三村』、『牡蠣喰え場』、『99ピザ』を出店

→ さらに『オイスタークラブ』、『やるきホルモン』、『大庄精肉センター』などを計画中

(3) 大型店舗はレイアウトを分割し、「小規模多機能」店舗への転換を推進

→ 『立川食肉横丁(4業態)』、『三鷹ドラム缶横丁(3業態)』のヒットに続き、『新宿西口』に出店予定

3. MD(マーチャндаイジング)改革の推進

(1) 『羽田市場(超速鮮魚)』、『大田市場(青果)』とのコラボレーション強化を検討

→ 「新物流センター」設立とともに本格化を目指す

(2) 関係会社の役割・機能を強化

→ 米川水産(株)は全国漁港との直接取引の拡大、(株)ディ・エス物流は関西、東北、九州地区等への商流・物流網の拡大を図る

4. 従業員向けの「モチベーションアップ策」を拡充

(1) 「庄やグループボランタリーチェーン (VC) 制度」を新設

→ 飲食業界を取り巻く厳しい経営環境を鑑み、創業以来進めてきた「独立(FC)制度」に代わる、従業員の“夢の実現”を支援する新しい制度

(2) 新たな「店舗インセンティブ制度」を導入

→ 「店長」「調理長」を対象に“年間営業利益額”に準じた“特別報奨金”を支給

(3) 将来に向けて、有能な「調理師」の確保・育成を強化

→ “調理技術大会(調理甲子園)”の毎年開催、“育成手当”の支給など

5. 新しい事業分野の展開

(1) 「新物流センター」の竣工・・・『D・S・L ヘッドクォーター羽田』

- ① 完成予定：平成30年5月
- ② 場所：東京都大田区東糀谷6-1-25
- ③ 敷地面積：2,541坪、建築面積：1,192坪、延床面積：4,300坪
- ④ 特徴：

- 最新鋭のマテハン機器導入による自動仕分け・コンベア搬送を実現。
“毎日一括物流システム”の強みを活かし、“コンビニ機能をもった食材卸売業者”として差別化をアピール
- (株)ディ・エス物流による「3PL物流事業」を当センター施設内で取組み、そのシナジー効果として「外販事業」を拡大していく

(2) 「インバウンド事業」のさらなる強化

- 英語・中国語対応メニュー、指さし会話シートなど様々な営業ツールの開発
- 広報活動や営業力も強化

(3) 「遊休不動産」の効率的運用

- 賃貸マンション等での活用も検討

1. 連結業績の内訳

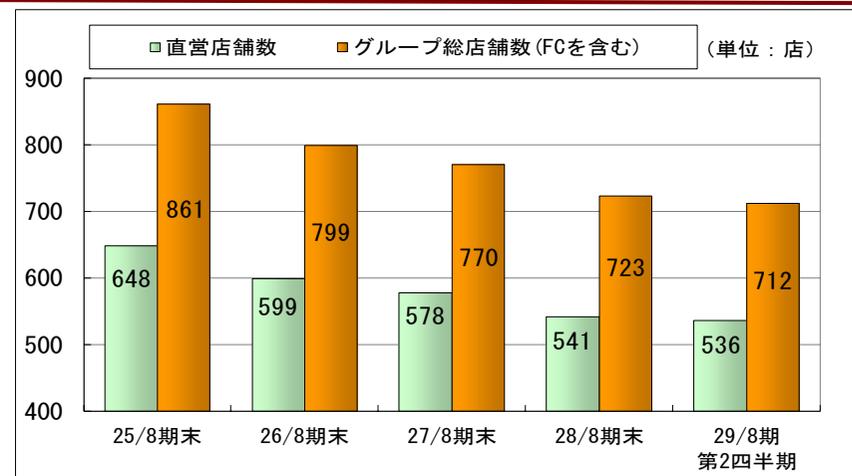
DAISYO CORP.

【単位：百万円】

	平成28年8月期 第2四半期実績		平成29年8月期 第2四半期実績		増減額	
		構成比		構成比		比率差
売上高	34,907	100.0%	32,256	100.0%	▲2,650	—
売上原価	13,064	37.4%	12,341	38.3%	▲723	+0.8%
販売費及び一般管理費	21,776	62.4%	19,720	61.1%	▲2,055	▲1.2%
営業利益	66	0.2%	194	0.6%	128	+0.4%
営業外収益	35	0.1%	45	0.1%	10	+0.0%
営業外費用	41	0.1%	38	0.1%	▲3	▲0.0%
経常利益	60	0.2%	201	0.6%	141	+0.5%
特別利益	19	0.1%	5	0.0%	▲13	▲0.0%
特別損失	243	0.7%	162	0.5%	▲80	▲0.2%
税引前当期純利益	▲163	▲0.5%	44	0.1%	208	+0.6%
法人税等	208	0.6%	146	0.5%	▲61	▲0.1%
法人税等調整額	▲168	▲0.5%	▲31	▲0.1%	136	+0.4%
非支配株主に帰属する四半期純利益	5	0.0%	7	0.0%	1	+0.0%
四半期純利益	▲208	▲0.6%	▲77	▲0.2%	131	+0.4%

2. 新規出店・改装店実績

	29/8期 第2四半期
新規出店	7
店舗改装	41
閉店	12



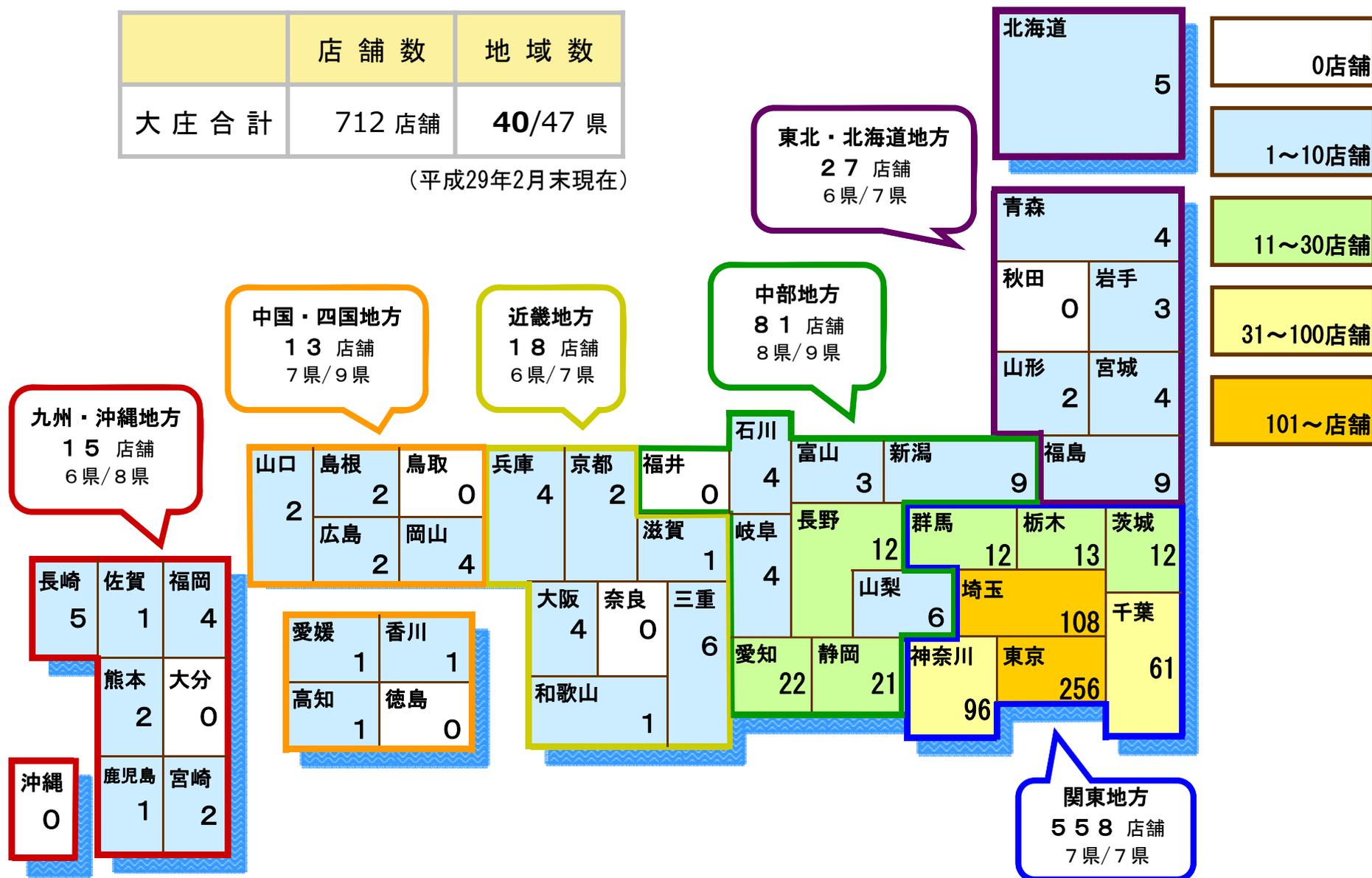
業態別明細

	28/8期	新規出店	(うち譲受)	改装	(うち業態変更)	閉店	増減	29/8期 第2四半期
庄や	188			1	(1) (▲5)	▲2	▲6	182
日本海庄や	99				(▲1)	▲2	▲3	96
やるき茶屋	44				(▲2)	▲3	▲5	39
大庄水産	33			3	(3)		3	36
がが・ファンタジー	8			27	(27)		27	35
がが・歌うんだ村	50				(▲27)	▲1	▲28	22
築地日本海	16						0	16
とり家 魚び寿	12	2		1	(1)		3	15
築地寿司岩	13			1		▲3	▲3	10
塩梅	9						0	9
羊肉酒場 悟大	3	3	(1)	2	(2)		5	8
呑兵衛	7						0	7
がが・Flat	4						0	4
RUMP CAP	2			2	(2)		2	4
もつ鍋 お多福	4						0	4
その他	49	2		4	(4) (▲5)	▲1	0	49
大庄合計	541	7	(1)	41	(40) (▲40)	▲12	▲5	536

3. 都道府県別 グループ店舗数

	店舗数	地域数
大庄合計	712店舗	40/47県

(平成29年2月末現在)



4. 売上高

(1) 既存店売上高（対前年比）

<前年比実績推移表>

	27/8期	28/8期	9月	10月	11月	12月	1月	2月	29/2期 累計	3月
売上高	101.0%	99.8%	98.9%	97.0%	98.3%	98.0%	97.9%	98.9%	98.1%	101.5%
客数	98.8%	98.0%	97.5%	97.3%	98.4%	97.5%	97.5%	96.0%	97.4%	100.1%
客単価	102.2%	101.8%	101.4%	99.7%	99.9%	100.5%	100.5%	103.0%	100.8%	101.3%

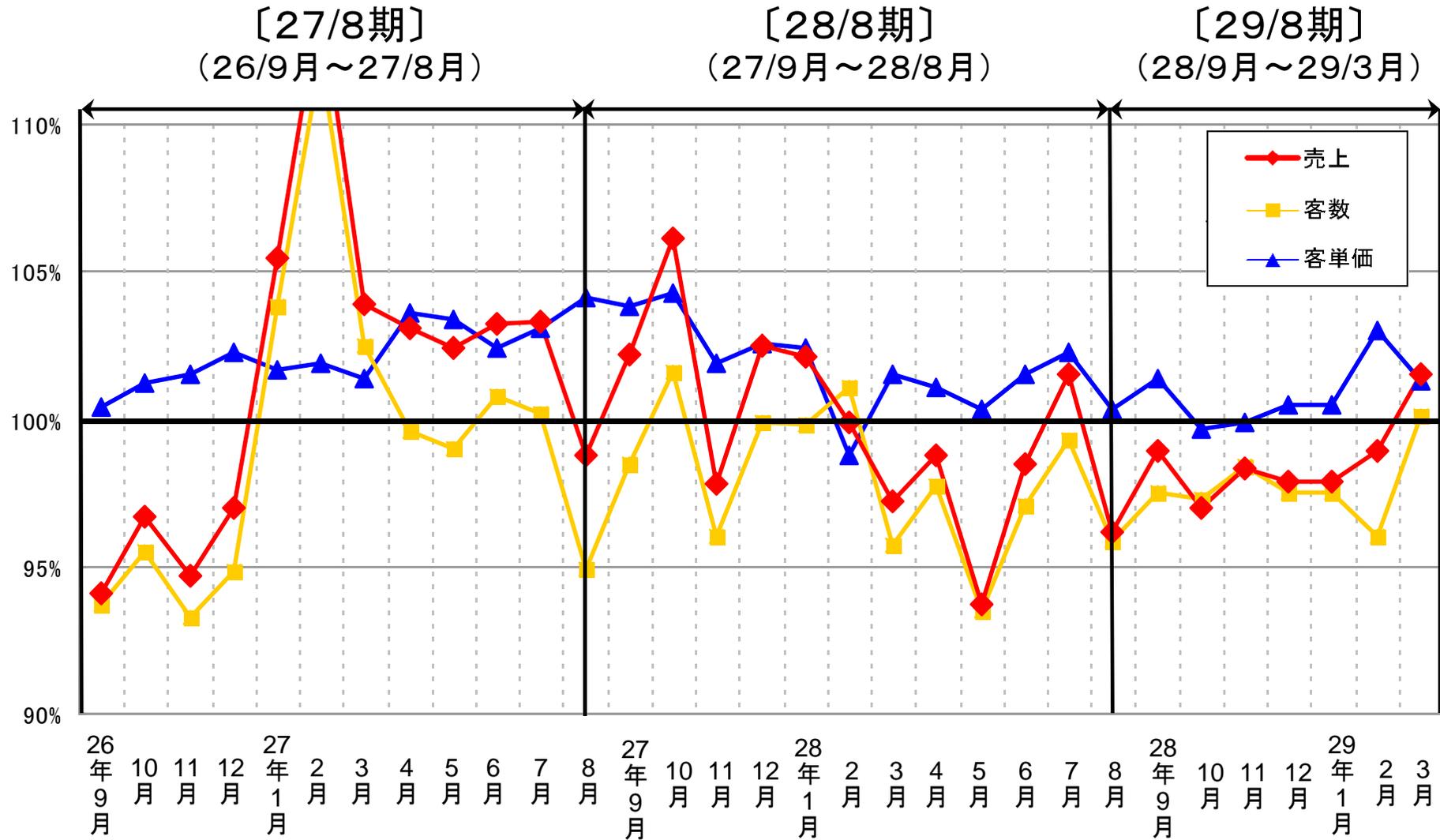
<カテゴリー別前年比実績>

	昼	宴会	夜フリー	29/2期 累計
売上高	109.4%	95.0%	96.6%	98.1%
客数	104.1%	93.7%	94.4%	97.4%
客単価	105.2%	101.4%	102.3%	100.8%

<カテゴリー別売上構成比>

	昼	宴会	夜フリー
27/2期累計	14.4%	13.5%	72.1%
28/2期累計	13.5%	13.8%	72.7%
29/2期累計	15.1%	13.2%	71.7%
前期増減率	+1.6%	▲0.6%	▲1.0%

(2) 既存店売上高・客数・客単価の前年比月別推移表



5. 販売費及び一般管理費の内訳

【単位：百万円】

	平成28年8月期 第2四半期実績		平成29年8月期 第2四半期実績		増減額	
		対売上比率		対売上比率		比率差
人件費	12,203	35.0%	10,835	33.6%	▲1,367	▲1.4%
地代家賃	3,419	9.8%	3,240	10.0%	▲179	+0.3%
水道光熱費	1,598	4.6%	1,378	4.3%	▲220	▲0.3%
販促・広宣費	813	2.3%	722	2.2%	▲90	▲0.1%
減価償却費	805	2.3%	699	2.2%	▲106	▲0.1%
消耗備品費	639	1.8%	634	2.0%	▲5	+0.1%
衛生費	473	1.4%	429	1.3%	▲44	▲0.0%
その他	1,822	5.2%	1,780	5.5%	▲42	+0.3%
販売費及び一般管理費	21,776	62.4%	19,720	61.1%	▲2,055	▲1.2%
営業利益	66	0.2%	194	0.6%	128	+0.4%

6. 連結特別損失の内訳

【単位：百万円】

項目	28/8期 第2四半期	29/8期 第2四半期	増減	備考
固定資産除却損	78	87	9	
減損損失	128	40	▲88	
店舗関係整理損	21	31	9	
閉店損失引当金繰入額	—	3	3	
固定資産売却損	14	—	▲14	
特別損失	243	162	▲80	

7. 連結貸借対照表 (B/S)

DAISYO CORP.

(単位：百万円)

	28/8期	29/8期 第2四半期	増減額
流動資産	18,625	18,383	▲242
現預金	15,071	14,757	▲313
売掛金	1,913	1,757	▲156
棚卸資産	611	609	▲1
短期繰延税金資産	302	413	110
その他	726	846	119
固定資産	22,384	22,779	395
有形固定資産	10,941	11,402	460
無形固定資産	1,325	1,442	117
敷金・保証金	9,494	9,392	▲101
長期繰延税金資産	161	75	▲86
その他	462	467	5
資産合計	41,010	41,163	153

	28/8期	29/8期 第2四半期	増減額(率)
有利子負債	6,167	7,922	1,754
現預金	15,071	14,757	▲313
NET有利子負債	▲8,904	▲6,835	2,068
自己資本比率	56.1%	55.3%	▲0.8%
有利子負債依存度	15.0%	19.3%	+4.2%

	28/8期	29/8期 第2四半期	増減額
負債合計	17,835	18,208	372
買掛金	2,064	1,692	▲372
未払金	2,539	2,127	▲412
借入金(長短)	6,017	7,862	1,844
社債	150	60	▲90
リース債務	386	290	▲95
資産除去債務(長短)	1,410	1,414	3
賞与引当金	396	684	288
役員退職慰労引当金	863	288	▲575
その他	4,006	3,788	▲218
純資産合計	23,174	22,955	▲219
株主資本	22,876	22,633	▲242
資本金	8,626	8,626	—
資本剰余金	9,908	9,908	—
利益剰余金	4,944	4,701	▲242
自己株式	▲602	▲602	—
その他包括利益累計額	125	142	16
非支配株主持分	172	179	6
負債・純資産合計	41,010	41,163	153

8. 連結キャッシュ・フロー

DAISYO CORP.

【単位：百万円】

	平成28年8月期 第2四半期	平成29年8月期 第2四半期	増減額
1. 営業活動CF	974	▲167	▲1,142
税引前利益	▲163	44	208
減価償却費	834	701	▲132
減損損失	128	40	▲88
賞与引当金増減額	603	288	▲314
役員退職慰労引当金の増減額	▲68	▲575	▲506
その他引当金純増減額	2	42	40
法人税等	▲281	▲789	▲507
その他営業CF	▲80	79	159
2. 投資活動CF	▲772	▲1,575	▲802
有形固定資産の取得による支出	▲917	▲1,370	▲452
有形固定資産の売却による収入	13	32	18
敷金・保証金の差入・回収純増減額	372	57	▲314
その他投資CF	▲240	▲294	▲53
※ フリーキャッシュ・フロー	(202)	(▲1,743)	(▲1,945)
3. 財務活動CF	▲586	1,492	2,079
長短借入金の純増減額	▲162	1,844	2,007
社債の純増減額	▲100	▲90	10
リース債務の返済支出	▲203	▲95	107
配当金の支払額	▲165	▲166	▲0
その他財務CF	44	▲0	▲45
4. 現金及び現金同等物の増減額	▲384	▲247	137

9. 関係会社の状況

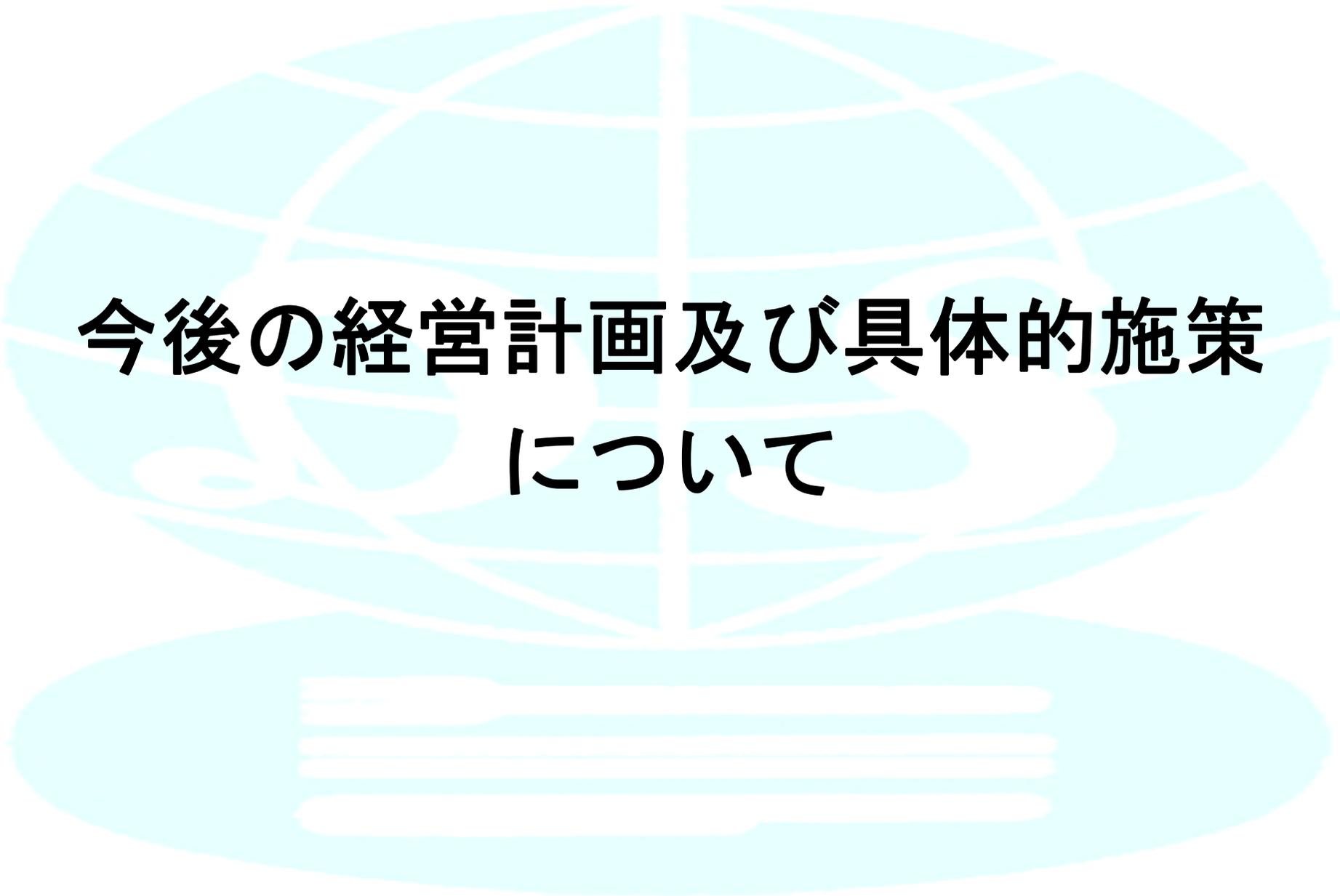
➤ 連結子会社

(単位：百万円)

	主要な事業内容	本社所在地	資本金	29/8期 第2四半期 売上高	議決権の 所有割合	備 考
米川水産(株)	生鮮魚介類等の 卸売業	東京都 中央区	90	2,097	100.0%	・築地市場での買参権を保有 ・外販部門の営業を強化
(株)ディ・エス物流	食材等の配送業	東京都 中央区	99	3,243	100.0%	・グループ店舗へ食材等を毎日一括配送 ・外部取引先への配送業務を強化中
(株)アサヒビジネス プロデュース	不動産賃貸管理 飲料販売	東京都 中央区	60	285	75.0%	・ソーシャルビルの転貸業務が柱 ・グループ店舗中心に「害虫駆除」事業を拡大中
新潟県佐渡 海洋深層水(株)	飲料水等の 製造・販売	新潟県 佐渡市	96	130	100.0%	・海洋深層水を利用したミネラルウォーターのOEM製造
(株)ミッドワーク	業務用空調機の 洗浄・修理	千葉県 柏市	10	51	80.0%	・業務用エアコン洗浄及びメンテナンス業務等

➤ 持分法適用関連会社

	主要な事業内容	本社所在地	資本金	29/8期 第2四半期 売上高	議決権の 所有割合	備 考
(株)エム・アイ・ プランニング	酒・飲料等の卸売・ 配送業	東京都 葛飾区	10	1,006	20.0%	・当社並びにF C店舗に酒・飲料等を卸売・配送



今後の経営計画及び具体的施策 について

10. 29／8期 通期計画(連結ベース)

(単位：百万円)

	28/上期 実績	29/上期 実績	増減	28/下期 実績	29/下期 計画	増減	28/8期 実績	29/8期 通期計画	増減
売上高	34,907	32,256	▲2,650	33,630	32,944	▲686	68,537	65,200	▲3,337
営業利益	66	194	128	▲90	506	596	▲24	700	724
経常利益	60	201	141	▲134	549	683	▲73	750	823
当期純利益	▲208	▲77	131	1,628	227	▲1,401	1,419	150	▲1,269

11. 29／8期 店舗計画

(1) 新規出店

	29/上期 実績	29/下期 計画	29/8期 通期計画
連結	7 店舗	8 店舗	15 店舗

(2) 改装店舗

	29/上期 実績	29/下期 計画	29/8期 通期計画
連結	41 店舗	29 店舗	70 店舗

※「カラオケ・歌うんだ村」から「カラオケ・ファンタジー」への転換(29/上期で27店舗)を含む

(3) 閉店

	29/上期 実績	29/下期 計画	29/8期 通期計画
連結	12 店舗	8 店舗	20 店舗

(1) 収益力アップを目指した「店舗リストラクチャリング」の取組

- ① 店舗構造改革ピーク年度として店舗改装を70店舗・閉店20店舗を計画
- ② 引続き、新業態への転換を中心に改装を進め、売上高と収益基盤の構造改革を進める
→ 将来への収益基盤の確立を図る

(2) 利益計画の骨子

- ① 売上高
 - ・ 「既存店売上計画」、下期は前年比100%で策定、通期98. 9% (上期98. 1%)
 - ・ 閉店・改装の増加により売上高は減少、前期比 下期 約▲7億円、通期 ▲33億円
- ② 原価・販管費
 - ・ 店舗オペレーション改善の取組による「FLコスト削減運動」を継続
 - ・ 「売上原価率」は、下期38. 0% 通期38. 1%を見込む
 - ・ 「販管费率」は、上期は前年同期比 ▲1. 2%と着実に低下トレンドにある
→ 下期60. 4%(前比▲1. 7%)、通期60. 8%(前比▲1. 4%)を見込む
→ 店舗ベース(既存店)では、下期前比▲1. 1%の改善を見込む
- ③ 店舗閉鎖(前期53店舗、及び今期20店舗計画)に伴う収益改善効果
- ④ 改装店・新店のオペレーション安定化に伴う収益力改善
- ⑤ 一方、今期改装(70店舗)における改装期間中の売上減少や新店も含めた消耗備品費その他の経費の一時増加、店舗運営の立ち上がりまでの営業損失なども織り込み

(3) 経営管理システム革新

- ① 新システムへの移行 ~ 新会計システム・新人事システムは、今期首よりスタート済み
- ② 現在基幹システムの全面見直し実施中
→ 本年9月新物流管理システムの稼働開始予定
→ 新物流センターにも対応

13. 中期経営計画（連結ベース）

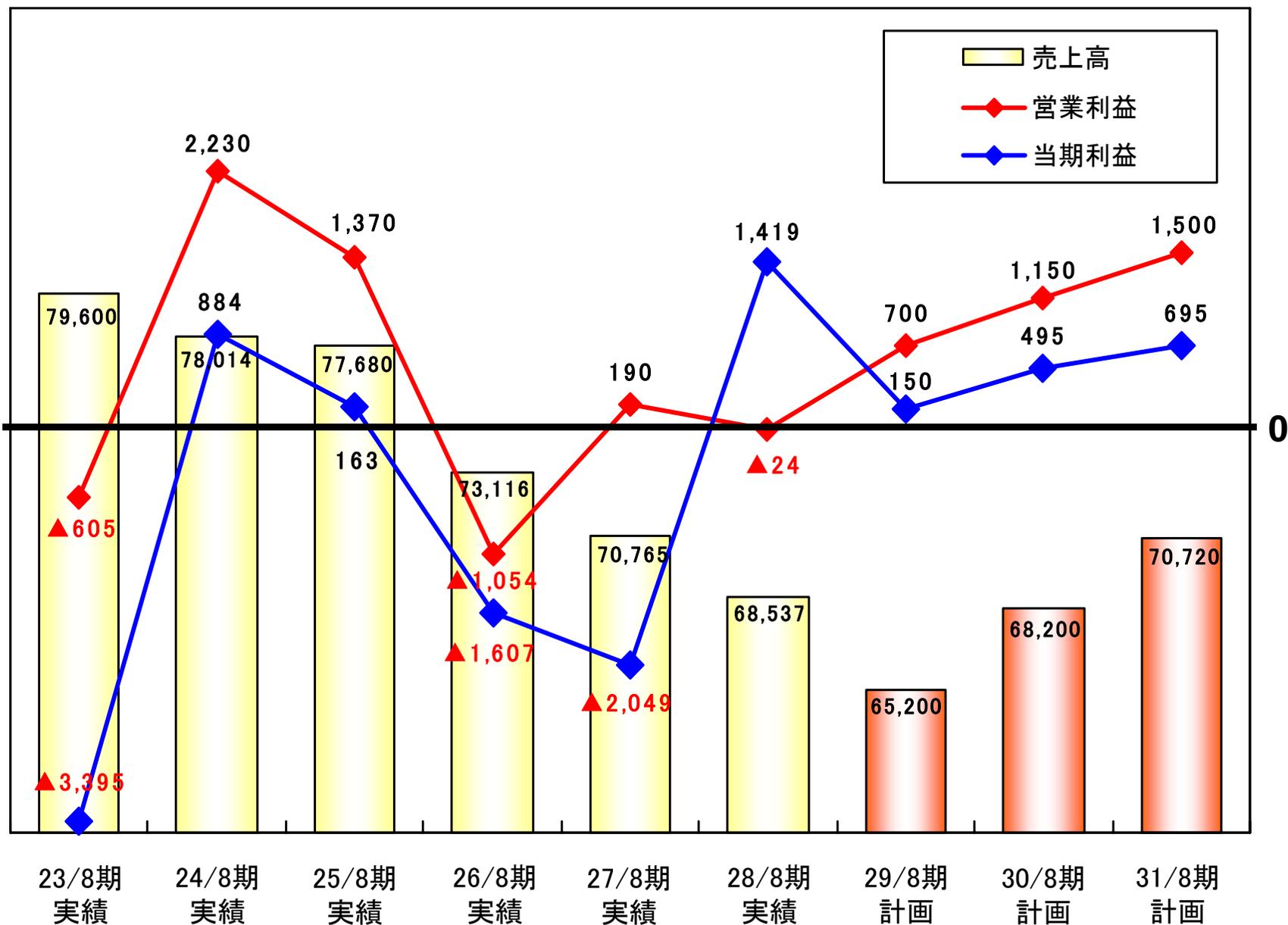
当面は、収益源である「既存店舗対策」を強化し、「店舗改装」を最重点に取り組む

（単位：百万円）

	27/8期 実績	構成比	28/8期 実績	構成比	29/8期 計画	構成比	30/8期 計画	構成比	31/8期 計画	構成比
売上高	70,765	100.0%	68,537	100.0%	65,200	100.0%	68,200	100.0%	70,720	100.0%
営業利益	190	0.3%	▲24	▲0.0%	700	1.1%	1,100	1.6%	1,500	2.1%
経常利益	181	0.3%	▲73	▲0.1%	750	1.2%	1,140	1.7%	1,540	2.2%
当期純利益	▲2,049	▲2.9%	1,419	2.1%	150	0.2%	495	0.7%	695	1.0%
新規出店数	5 店舗	—	16 店舗	—	15 店舗	—	10 店舗	—	10 店舗	—
改装店数	18 店舗	—	54 店舗	—	70 店舗	—	30 店舗	—	30 店舗	—
閉店数	26 店舗	—	53 店舗	—	20 店舗	—	10 店舗	—	10 店舗	—
期末店舗数	578 店舗	—	541 店舗	—	536 店舗	—	536 店舗	—	536 店舗	—

通期連結売上高・営業利益・当期純利益の推移表

(単位:百万円)



【将来見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績見通し等に関する記述内容につきましては、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

従いまして、実際の業績等は、様々な要因により大きく変動する可能性があることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与える要因としては、当社グループを取り巻く経済・社会情勢や市場環境、会計基準や法律・諸制度の変更などがあります。さらに、自然災害などの予測不可能なリスク要因も含まれております。

また、当資料は、当社グループをより深く理解いただくために、株主、投資家の皆様への情報提供を目的としたものであり、必ずしも投資をお勧めするものではないことをご認識いただくようお願い申し上げます。

**IRお問い合わせ先****担当部：株式会社大庄 経営企画部****電話：03-5764-2229****FAX：03-5764-2237**